

<平成 19 年度 「土木の日の集い」が開催されました>

「土木の日」は現在の土木学会の前身にあたる工学会の創立日である明治12年11月18日、また、「土木」の文字を分解すると「土=十一」、「木=十八」となることにちなみ定められたもので、この日にあわせて土木のイメージアップと理解を深めていただくことを目的として、全国各地で様々なイベントが実施されております。本県においても栃木県魅力ある建設事業推進協議会（CCIとちぎ）、土木学会関東支部栃木会の共催で「土木の日の集い」を行っており、平成19年度は以下のようなテーマ・内容にて開催いたしました。

日 時

平成19年11月16日（金） 午後2時00分から午後5時30分まで

会 場

ホテルニューイタヤ 天平の間 宇都宮市大通2-4-6 TEL028-635-5511

参加者

一般県民、建設関連学科に学ぶ学生、建設業関係者、学会関係者、行政関係者 等

テーマ

「魅力ある建設産業を目指して～地域との連携と人材育成～」

内 容

- ① 基調講演「実践力を高める人材育成～成人教育という考え方～」
講師 廣瀬 隆人 氏（宇都宮大学 生涯学習教育研究センター 教授）
- ② パネルディスカッション 「建設産業における、地域との連携と人材育成」
コーディネーター 森本 章倫 氏（宇都宮大学准教授）
パネリスト 渡邊 勇雄 氏（中村土建(株) 社長）
大嶋 一生 氏（葵建設(株) 社長）
関 圭尚 氏（篠崎建設(株) 係長）
荒井 昌明 氏（パスキン工業(株) 課長）
- ③ 選奨土木遺産認定書授賞式



基 調 講 演

廣瀬 隆人 (ひろせ たかひと)

[宇都宮大学 生涯学習教育研究センター 教授]

実践力を高める人材育成～成人教育という考え方～

- ① 講義を聴いて効果があるのか
- ② 相手は「おとな」なのだから…
- ③ だから、reflection (ふりかえり) をする
- ④ そうすると、問い直す習慣がついてくる

～「本当にそうなのか」という問い

○経歴

1956年、北海道生まれ。高等学校教員を経て、少年自然の家、北海道教育委員会等に勤務の後、国立教育会館社会教育研修所（現国立教育政策研究所）勤務。2000年から宇都宮大学。

○公職

宇都宮市社会教育委員長、宇都宮市行政改革懇談会委員、とちぎ男女共同参画財団理事、とちぎ協働デザインリーグ副理事長、陽東中学校区魅力ある学校づくり地域協議会会長など。

○専門領域

成人教育学。ボランティア・NPO、まちづくり、学校と地域の連携、人権教育など成人の学習行動に関すること。

○栃木県関係の著作物

「さあ、はじめよう学校支援ボランティア」
「協働・人がつながる空間 とちぎの協働事例集」
「こんなんでえいいんけえ 事例で考えるボランティア・NPO」
「創造・協働の森へボランティア・NPOと公共施設の協働ガイド」
「とちぎの協働スタートブック」

2003栃木県教育委員会
2003栃木県文化振興課
2005栃木県文化振興課
2005栃木県文化振興課
2007栃木県文化振興課



建設産業における、地域との連携と人材育成

コーディネーターからのメッセージ

近年、建設業に携わる若手が社内や社外で十分なコミュニケーションがとれずに辞めていくケースが多々見られます。上司や住民との付き合いができなかったり、建設業自体の魅力を感じなくなったり原因はさまざまです。そこで、地域との連携や人材育成で努力されている企業の経営者や技術者を招き、「建設業における人づくり」について討議したいと思います。人づくりを通して世代間の交流を活性化し、建設技術の伝播を促すことで、建設業の魅力の再発見につながることを期待しています。



【森本 章倫 プロフィール】

(所属) 宇都宮大学工学部建設学科准教授

(略歴) 1987年 早稲田大学理工学部卒業。同大学大学院理工学研究科修士課程・博士課程を経て、1993年博士(工学)の学位取得

1991年 早稲田大学理工学部助手

1994年 宇都宮大学工学部助手

1997年 マサチューセッツ工科大学(MIT) 客員研究員

1999年 宇都宮大学工学部建設学科助教授、現在に至る

(専門) 都市計画及び交通計画、博士(工学)、技術士(建設部門)

パネリスト紹介

渡邊 勇雄

- ・中村土建株式会社
代表取締役社長
(1974年就任)
- ・日本大学卒業
- ・一級建築士
- ・社団法人宇都宮建設業協会
会長
(1998年～2002年)

大嶋 一生

- ・葵建設株式会社
代表取締役
- ・東北福祉大学
社会福祉学科卒業
- ・(社) 栃木県建設業協会
日光支部青年の会会長
- ・NPO 法人さくらん坊
理事
- ・前(社) 栃木県建設業協会
青年経営者連合会副会長
- ・元(社) 今市青年会議所
理事長
- ・元(社) 日本青年会議所
栃木ブロック協議会
会長
- ・元栃木県行政改革推進委員
会委員

関 圭尚

- ・篠崎建設株式会社
土木工事部係長
- ・足利工業大学工学部
土木工学科卒業
- ・一級土木施工管理技師
- ・入社後に現場代理人・主
任技術者として担当し施
工した主な工事
- 道路改良工事
- 舗装工事
- 水路工事
- 立体交差工事
- 下水道工事
- 電線共同溝整備工事

荒井 昌明

- ・パスキン工業株式会社
コンサルタント
事業部2課
技術2課課長
- ・金沢工業大学
土木工学科卒業
- ・測量士
- ・大学卒業後、一貫して設計
課に所属し、主に下水道管渠
の実設計を手掛けて来た。
設計課課長を経て、現在は
測量、GIS、設計課を取りま
とめた技術2課の部門長(課
長)に至る。
- 社内では、ISO 内部監査委
員及び個人情報保護内部監査
委員として品質保証並びに個
人情報保護に努めている。



平成19年度選奨土木遺産に『境橋(那須烏山市)』が認定されました！！

1. 選奨土木遺産の趣旨及び内容

土木学会では、土木遺産の顕彰を通じて歴史的土木構造物の保存に資することを目的として、土木学会選奨土木遺産の認定制度を平成12年度に設立した。

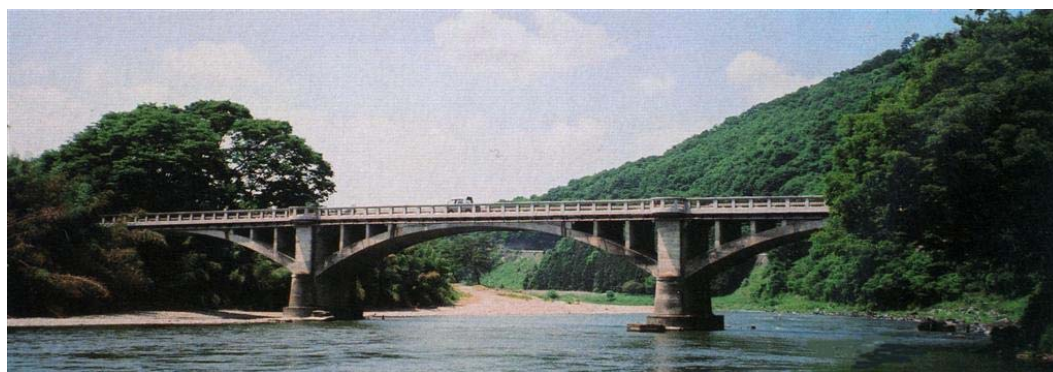
選考方法は、土木学会選奨土木遺産選考委員会（委員長：伊東孝）により、「日本の近代土木遺産－現存する重要な土木構造物2800選（土木史研究委員会編、土木学会発行）のリストを中心に技術的・デザインの優れたものや由来やエピソードが豊富な構造物などを「選奨土木遺産」として認定表彰している。

今年度は全国で23か所が認定され、本県では那珂川に架かる那須烏山市の境橋が認定された。



2. 境橋の概要

- ① 路線名 県道常陸太田烏山線 境橋
- ② 所在地 那須烏山市宮原地内（那珂川）
- ③ 完成年 昭和12（1937）年
- ④ 橋長・幅員 112.5m×6.1m
- ⑤ 形成 RC オープンスパンドレルアーチ橋（ヴォールト＋板）



3. 推薦経緯、理由等

- ① 全国でも数少ないバルコニー付 RC アーチ橋である。バランスのよい3連の開腹アーチは、那珂川周辺の景観とも調和して優美な景観を呈し、市民に親しまれている。
- ② また、那須烏山市は、地域に存する近代土木遺産等に解説板を設置するなど、近代化遺産の活用をとおして熱心にまちづくりに取り組んでいる。

4. 参考(これまでの本県の認定物件)

- ① 晩翠橋（那須塩原市・那須町／那珂川） 平成14年度認定
- ② 宇都宮市水道施設群（今市浄水場、第6号接合井、戸祭排水場） 平成17年度認定

境 橋

境橋は、那須烏山市の東端を流れる那珂川に、昭和12（1937）年11月に架けられた橋長112.5m、幅員6.1mの鉄筋コンクリートアーチ橋である。

明治の初期までは渡し舟で連絡していたが、明治30（1897）年に、幅7尺（約2m）、長さ6間（約11m）の舟を10艘並べ、その上に梁を渡し、板を敷き並べた舟橋を設置した。

しかし、洪水時には取り外さなければならぬなどの問題があったため、大正9（1920）年に木橋が架設され、その後、昭和12（1937）年に、永久橋となる現在の境橋が架けられた（総工費5万4千円余）。

境橋の構造は、ほぼ同じ3径間のオープンスパンドレル（開腹）の上路式鉄筋コンクリートアーチ橋で、1連のアーチスパン（支間）は36m、アーチライズ（拱矢）4.5m、アーチリング（拱環）が中央部の厚さ60cm、端部の起拱点の厚さ120cmとなっている。

アーチリングには、支壁が各径間とも左右に並び床板を支えており、アーチの中央部は床板と一体化している。

3つの開腹アーチは、周辺の景観ともマッチし、美しい景観を与えている。

出典：土木学会関東支部栃木会「とちぎの土木遺産」HPより

